

2018年キャンパスアジアプログラム

S Semester ソウル大学留学報告書

04-174345 文学部社会学専修課程 4年 山田恭平

1. はじめに

2017年9月より、韓国のソウル大学自由専攻学部に1年間の交換留学を行った。そもそもの留学に至る経緯はEALAIの「ベストウィンタープログラム」（2017年2月）への参加がきっかけであり、このとき出会った多くのソウル大の友人に誘われる形で韓国留学を決めた。留学中はもちろん、留学前の準備段階から彼らの支えに大変助けられ、彼らのおかげで充実した留学生活を送ることができた。

そうした留学の一期生である我々の経験が、のちの学生の参考になれば幸いである。もちろん、「東大の生活」が多様なと同じように、「ソウル大の留学生活」にも様々なかたちがある。語学や学問に集中するのも素晴らしいし、友人作りや旅行など、現地ならではの体験を重ねるのも大いに意味があるだろう。自分の描く理想の留学生活を実現するための前提として、日常生活や学校生活に役立つ情報を提供できたらと思う。また、留学というのは、留学先の国で「外国人留学生」として暮らすことを意味する。その国のことをまだよく知らず、周囲に知人も多くない状態から生活が始まるのである。そのため、あらゆるトラブルや危険を回避し、無事に留学を終えることもまた非常に重要なことであろう。これらの点に留意しながら、ソウル大学で生活するうえで最低限必要な情報を整理し提供したいと思う。

以下ソウル大での生活の各分野ごとに、その概要を紹介する。次いで、留学において身を守るために知っておくべき情報を記載する。

また、この文章は、2017年度A Semester 留学報告書の形式を踏襲したものではあるが、内容を大幅に加筆、修正したものであり、異なる内容が記載されている場合はこの文章を参照してもらいたい。

2. 各分野の概要

語学

【概要】

韓国では大卒者の英語水準は高く、学校、病院など英語が通じるところが多いため、英語を用いての生活も可能である。しかし大学の外に出ると、看板や注意書きに英語が併記されていない場合や、食堂などで英語が話せない店員と接する機会も多く、韓国語で基本的な日常会話ができることが望ましい。友人関係について、英語で生活する場合は、ソウル大に留学に来ている各国出身の学生（韓国語が分からない学生も多い）を中心に交流し、韓国語で生活する場合には見た目も文化も近い韓国人学生と交流を持つことができるだろう。

【韓国語学習】

韓国語の語彙の70パーセントは「漢字語」であり、日本語と語順が同じであるため、日本語母語話者は相当早い速度で語学力の向上が見込める。

大学で韓国語の講義を受ける方法は、主に2種類ある。1つは「語学堂」と呼ばれる大学付属の語学教育期間で授業を取ることが可能である（ソウル大の場合は「言語教育院」）。大学の正規の授業で

はないので、学費などが別途発生するが、補助が出る場合もあり、早い段階でソウル大の担当者に希望を伝えると良い。レベルが1級～6級(最高級)に分かれており、これはほぼ韓国語能力試験(TOPIK)の級に対応している。授業時間は平日毎日9時から13時で、時折週末に「文化体験」と称し、遠足なども行う。もう1つの方法として、外国人学生向けに開講される大学の正規の授業を履修することもできる。授業名としては「中級韓国語」「高級韓国語」「韓国語語彙と表現」など。授業回数は一コマ75分、週に2回ほどではほかのソウル大の授業と差異はない。語学堂では受講者のレベルに合った文法などを細かく学習するのに対して、正規の授業は受講者の韓国語能力も多様であるため、作文練習やエッセイの読解などが中心となる。

韓国語で最低限の日常生活を行える語学力は韓国語能力試験(TOPIK)4級ほどが目安であるが、語学試験の成績と、語学を用いたコミュニケーション能力は必ずしも一致しない。

個人的な語学学習のアドバイスとしては、やはり韓国人の友人を多く作り、実際に話してみることが語学上達の近道だと思う。ここで気を付けるべきことは、意思疎通ができるレベルに語学力が達してしまうと、その状況に甘んじてしまい、語学上達のモチベーションが低下してしまうことがあると思う。具体的に言うと、知っている語彙や表現のみで言いたいことを伝えられてしまうため、それ以上の単語や文法の学習を怠りがちである。ここで辞書を引くなどの地道な学習も、継続できるかどうか、語学力向上の分かれ道であるだろう。

【英語、その他の学習】

ソウル大学の英語の授業はその多くに履修定員があり、希望すれば必ず履修できるとは限らない。ソウル大生の英語能力は概して高く、交換留学などを通じた学生の海外経験も東大に比べて多いようである。特に「キャンパスアジアプログラム」留学先の自由専攻学部には推薦入試制度があり、高校までの海外経験を持つ学生が一定数いる。

中国語などその他の言語の授業も、教養科目として開講されている。使用言語は当然韓国語であるが、初級レベルの語学学習だとそこで使われる韓国語語彙も限定的であるため、交換留学生の立場としては専門科目の授業よりも比較的履修しやすいといえる。

アクセス、施設

【概要】

ソウル大学のキャンパスは有名な登山地「冠岳山」に隣接しており、山がちである。もともとゴルフ場であった場所にキャンパスを作ったということもあり、広大で坂道が多い(キャンパスは元来別の場所にあったが、学生運動が盛んでうるさいとの理由で、市の中心から離れた山の中に移されてしまったそう)。キャンパス内の移動は徒歩が中心だが、循環バスもある。基本的にはエリアごとに学部が分かれており、「人文大学」(人文学部)、「経営大学」(経営学部)などの名称で呼ばれる。

最寄駅は「ソウル大入口」駅で、そこからバスに乗り10分ほどでキャンパスに到着する。市バス(5513番など)と無料のシャトルバスがあるが、ソウル大のどこに行きたいかに応じて使い分ける必要がある。学生寮はキャンパスに隣接しており、徒歩で通学可能。寮からの最寄駅は「ソウル大入口駅」の隣の「ナクソンデ」駅であり、バス(02番)や徒歩で移動できる。

朝の9時ごろや午後6時ごろは、大変な通学ラッシュとなり、バスを待つ列が生じるほか、渋滞によりバス乗車時間が通常の倍になることもある。

ソウル大キャンパス内には図書館やジム、カフェをはじめ、銀行や郵便局、薬局などの生活に必要な施設、食堂が数か所、ロッテリアなどの外部資本の店舗もある。

学内施設やバスについては、留学生オリエンテーションで説明される。

【図書館】

図書館へ入場するには学生証が必要である。この学生証は、専用アプリを使ってバーコードとして表示させることもできる。図書館内には書架、パソコン室、自習スペース、メディアブース、グループ学習室などがある。6階や7階などの一部自習スペースの座席は予約制であり、自習スペースの入り口にある端末を使って予約する必要がある。この作業は専用のアプリからも行うことができる。また、書籍の延長申請なども同様にウェブサービスを通じて可能である。

【食堂】

キャンパス内に数か所あり、それぞれ運営業者やメニューが異なる。利用方法は、列に並び、皿を取る手前においてある端末でカード決済。このとき、学生登録処理を行ったカードを用いると学割（1000ウォン）が受けられる食堂もある。学生登録は食堂にある端末で行う。また、現金での食券購入も可能。価格は3000ウォン～5000ウォン程度。一つの食堂ごとに基本的にメニューが二種類あり、どちらかを選択して皿（メイン、おかずなど）を受け取る。韓国料理らしい石鍋のメニューや、辛いメニューも多い。その日のメニューや運営時間は食堂のアプリで確認することができる。

【学生会館】

ソウル大からの奨学金受け取り指定口座となっている新韓銀行や、売店、食堂、書店、薬局、メガネ屋、携帯電話ショップ、理髪所などがある建物で、生活に必要な施設がそろっている。ここの食堂は1000ウォンで食べれるメニューがあり、お金に余裕がない学生にとっては大変助かる（味はあまりよくない）。

また、ここの5階には学生相談所があり、専門家によるカウンセリングが受けられる。

金銭

【概要】

韓国の物価は日本とそう変わらない。レートによって変動するが、おおよそ1000ウォン=100円であり、価格計算は容易。会計する際はほぼカードのみを用いるカード社会であり、大学で発行した新韓銀行のチェックカードではバスや地下鉄も乗れる。友人同士の「割り勘」も、アプリ（TOSS）を通じた送金が一般的。ただし、屋台や市場、ゲームセンターなどでは現金のみ使える場合がある。学食、交通費、酒代は日本と比べて相当に安い、他のものは日本と大差ない。

現金をほぼ使わない社会であり、ポイントカードもほとんど電子化されている（アプリでバーコードを提示する）ため、自然と人々の財布は小さくなる。長財布を使用していると「日本人みたい」といわれる。

【奨学金】

大学の韓国銀行で開設した口座に振り込まれる。毎月10日ごろの振り込みであったのだが、初月などは振り込み日が異なる可能性が高く注意が必要。

授業

【概要】

授業の履修は東大と異なり、開講前の指定された期限までにウェブ上で登録を済ませる。登録開始時間と同時に先着順での履修登録であるため、コンサートチケットを取る要領でパソコンの前に待機し、希望の授業順に素早く画面をクリックする必要がある。一般的に英語の講義は人気が高くすぐに定員になるそうである。また、大学の成績が奨学金受給や交換留学、就活の際に重要であることから、成績が振るわなかった授業を再履修する場合もあるという。授業のほとんどに出席チェックがあり、出席率はほぼ100パーセントである。文系科目にも中間試験、中間レポートが多く、課題や勉強量は東大よりも多くなる傾向がある。前述のように成績を重視する学生が多く、授業参加度が評価に含まれる場合は授業中の学生の発言は概して積極的である。授業を友人同士で受けることは少ないように見受けられる。授業での文書配布や、学生の課題提出は、ETLと呼ばれるウェブサービス上で行われることが多い。

余談であるが、上に述べたような熾烈な履修登録システムが採用されているため、履修登録日の早朝には「PCバン」と呼ばれるネットカフェに行き、高性能のパソコンで履修登録に臨む学生が多い。

【単位交換について】

基本的には、東大の自分の所属学部の規定に従う。交換可能単位数や、専門科目の交換（読み替え）が制限されているので、よく確認すること。また、演習（ゼミ）の授業は、交換ができない学部、学科が多い。また、韓国の語学堂での授業は本来大学の科目ではないが、単位として認められた前例（文学部）があるため、語学堂の履修を考えているならばあらかじめ確認すると良い。

【履修授業の紹介】

ソウル大学で履修した授業について簡単に紹介する。授業の評価については「SNU LIFE」というコミュニティサイトで確認できるが、韓国語であるため、参考にするのが難しいと思われる。韓国語が不安な場合は、英語の授業や、「韓国語」自体を扱う授業を履修すれば安心であろう。個人的には、語学の授業（中国語など）は韓国語の聞き取りがしやすくおすすめです。また、自身の専門の授業も取ってみると良いだろう。韓国語には漢字語が多いので、よく予習をすればついていけるはずである。

・高級韓国語【2学期/国語国文科/月、水2限 /韓国語/20人】

外国人向けの韓国語授業の最高級で、このほか帰国子女の韓国人学生向けの同名の授業がある。授業では様々なタイプの文章の作文演習や、興味のある社会問題についての発表などが課される。各国出身の交換学生や正規の学生が参加するが、一般的なソウル大の授業と同様、全員で仲良くなるというような雰囲気はない。

・大学国語（書き方の基礎）【1学期/国語国文科/月、水2限 /韓国語/10人】

一年生の必修授業で、論文の書き方を学ぶ授業。同名の外国人学生向けの授業を履修した。本来正規入学の一年生が取る授業であるため、交換学生はいなかった。韓国人向けの授業よりも内容は易しく、論文で使う高度な語彙や漢字の学習、文章構成や引用の仕方とその様式などを学ぶ。学期中に2回ほど遠足に行くことになっており、担当の教授も含めて和気あいあいとした雰囲気である。

また、韓国語のチュータリング制度があり、毎週韓国人学生が一对一で勉強を見てくれる課外授業が義務付けられている。



体験学習で訪れた寺院

- ・韓国語語彙と表現【2学期/国語国文科/火、木2限/韓国語/20人】

韓国人学生と外国人学生と一緒に履修することができるよう設計されているとのことである。実際、韓国人学生と外国人学生の比率は半々ほどであった。成績評価は韓国人と外国人では異っている。内容としては、韓国語の高度な語彙、接頭辞や接尾辞などの文法知識、ことわざや慣用句などを学ぶ。漢字の知識が欠かせないことから中国人学生が多く履修していた。小テストやレポートなどそれぞれに課題があり、韓国人学生にとっては難しくもなんともないが、外国人学生には難解なものが多い。成績評価は外国人に対しては優しく行ってくれるようである。

- ・自律研究【2学期/自由専攻学科/金曜7限/英語/20人】

自由専攻学部の必修授業で、一学期目はキャンパスアジア参加の日韓両学生の必修科目とされた（今後は必修はないようである。一学期目は日中韓の参加国のうち、ソウル大がホスト校であったため必修が課された）。自律研究は関心分野ごとに3人～5人の班に分かれ、英語もしくは韓国語でレポート作成、発表を行う授業であり、講義などはない。一学期間を通したグループワークであり、班の学生と仲良くなることができる。私たちの班のテーマは「韓国の高齢者嫌悪問題を通じて見る、日韓高齢化社会の比較と考察」（韓国語）であった。ほかに歴史問題やジェンダー問題をテーマにした班があった。

- ・主題研究【2学期/自由専攻学科/金曜5，6限/英語/20人】

自律研究と同様、自由専攻学部の必修授業で、一学期目はキャンパスアジア参加の日韓両学生の必

修科目とされた。東大の「初年次ゼミ」に似た授業であり、講師によって内容が違う。今回の「主題研究」では、「デジタルヒューマニティー」を専門とする韓国系カナダ人の教授が担当し、授業ごとに論文を紹介しながらデジタルヒューマニティー（データをある集め方で収集することで新たな発見を生み出す。そしてその成果を視覚化して表す際にもデジタルツールを用いる）の多様な方法論を学ぶというものである。個人または班で興味のあるテーマを設定し、「デジタルヒューマニティー」の方法論を用いてレポートの作成、発表を行う。私たちの班は「QGISを用いたソウル大の視覚効果付きバリアフリーマップ作成と、そこから見える課題」をテーマとした。

・初級中国語2【2学期/中語中文学科/月、水、金3限/韓国語/25人】

・中級中国語1【1学期/中語中文学科/月、水1限/韓国語/25人】

教養科目として中国語の授業があり、初級1、2、中級1、2、の順でレベルが分かれている。初級には中国語学習経験者は履修できないなどの制限がある。授業は初級で週に3回（2回+中国人講師の会話授業）、中級は週に2回である。指定の教科書を毎週一課ずつ進める方式で、毎課単語のテストなどがある。授業で使われる韓国語が文法用語や簡単な中国語の訳・解説であることから、韓国語の聴解はしやすい。韓国語で学習する以上、中国語から韓国語に訳す作業はそれなりに負担であるが、漢字になじみのない韓国人もいることから、日本人はその点有利に進めることができるともいえる。

・韓国現代史の理解【1学期/国史学科/火、木2限/韓国語/20人】

1945年の解放期から2000年代に至るまでの韓国現代史を学ぶ教養科目。実際には朴正熙の維新政権までを授業で重点的に学習した。基本的な通史を学ぶ講義形式の授業であり、専門用語などはあらかじめ予習をしておくとう聞き取りやすい。2、3回の書評レポート、期末試験が評価対象である。期末試験は指定用語を用いた記述問題で、歴史的イベントの背景や経緯、その歴史的意味などを説明することが求められる。

日本語で予習をしておくとう、授業は相当程度聞き取れるだろう。

・古典社会学理論【1学期/社会学科/火5.6限/韓国語/30人】

社会学の古典といわれる思想を学ぶ講義であり、社会学科2年生の必修授業である。学問分野としての「社会学」が確立される以前の近代思想の系譜についても学ぶ。また、社会のあり方を構想した孔子を代表とする古代中国の思想も学習範囲であり、「東アジアの社会学」「韓国の社会学」も講義テーマとして予定されていたが、進捗の関係で行われなかった。マルクス、ニーチェ、フロイトについて、近代を問い直す思想家と位置付けて時間を割いて説明した。「自殺論」「プロテスタンティズムと資本主義の精神」などの社会学の古典、もしくは「孟子」などの中国の古典の中から一冊を選択し書評を書くレポートと、自由記述式の期末試験が評価対象である。

教授が年配の方であり、韓国語の聞き取りや、韓国語の板書は、慣れるまでは理解するのが大変であった。

寄宿舎

【概要】

新館、旧館で設備は異なるが、基本的にはルームメイト（2人部屋、もしくは大部屋）と生活する。

どの棟に所属するかは、交換留学の手続きの際に指定された。旧館ではシャワーやトイレが部屋の外にあり、部屋にはベッドと机のみある。旧館の寮の中には冷蔵庫や洗濯機が共用で存在し、生活に不便することはないが、人によっては部屋の狭さが気になるかもしれない。基本的に国際寮でなく、一般的な韓国学生寮に入ることになるだろうことから、簡単な韓国語が分かると望ましいだろう。ドアの開閉がパスワード式であり、開閉時になるベルの音が少々気になる。寄宿舍エリアには食堂や売店、オープンスペースがあり、学校にも近いことから立地は良い。



部屋の写真。ルームメイトと。なかなか狭いが、快適である。

【施設】

寄宿舍の周りにはコンビニ、売店、理髪店、軽食屋、コインカラオケなどがあり、便利である。また、ジムも併設されているが、使用には前月までの登録が必要である。

注意点

【概要】

海外での留学生としての生活には、トラブルや危険が付きまとう。特に、キャンパスアジアプログラムはまだ始まったばかりであり、自分の身は自分で守る姿勢が不可欠である。そのための注意点を述べるとともに、もし何かあった場合の対応についても紹介する。

【気を付けること】

①身の安全

健康な体で留学を終えたい。そのために、身の安全を確保することは最も重要であるといえる。特に車の事故について。韓国の車線は日本と反対の右車線であり、道を渡る際、車は左からくる。また、タクシーなどから降りる際も、必ず右から降りる。左からは対向車が来るためである。車の運転は基

本的に日本より荒いため、道で注意するだけでなく、乗車の際には必ずシートベルトを締める。事故はいつ起こるかわからず、対策のしようがない場合が多いが、用心を重ねるに越したことはないだろう。

また、韓国は街頭での宗教勧誘がとて多く、学内や寄宿舎の前でも見かけることがある。彼らは親しげに話しかけてくるので、無視するのが難しいかもしれないが、連絡先などの個人情報教えず、立ち去るのが無難である。特に、一人で歩いている人、まだ友達の少ない外国人は標的にされやすく、パーティーなどへの参加を進められる場合もあるが、用心する方がよい。待ち伏せや金銭的被害などに合う恐れがある。特に、自身がクリスチャンであっても、韓国のキリスト教はよく注意してその内実を確かめるのが良い。というのは、韓国のカルトの多くはキリスト教系であり（仏教系もある）、安全な宗派とカルト系の宗派を見分けるのは難しいからである。

②健康

韓国は朝晩と日中の寒暖差が激しく（日較差という）、風邪をひきやすい気候である。特に朝に冷えないよう気を付けたい。冬はマイナス10度代まで気温が下がるので、十分な防寒が必要だ。また、「微細埃」と呼ばれる大気汚染（pm2.5）がひどい日が多く、天気予報に注意し、マスクを着用した方がよい日もある。食べ物について、基本的にソウル市内の飲食店で提供される食べ物、水は信頼してよいが、夏場の屋台は注意すべきだとよく言われる。辛いものを無理して食べると体調を崩すのはいうまでもない。

③金銭

留学にはなにかとお金がかかるが、金銭を巡るトラブルは起こりやすいので、注意する。

まず、韓国の銀行口座を開設するが、当然のことながら、手伝ってくれる韓国の友人などがいても、カードの番号などは絶対に知られないようにする。また、奨学金がすぐに振り込まれない場合もあるが、その際にお金を友人から借りるよりも、日本からクレジットカードを複数枚持って行って対応する方がよいだろう（ちなみに、クレジットカードはICチップの付いているものでないと韓国では使えない）。

【頼れる機関】

もしも韓国で何かトラブルが起こった場合に、頼れる機関を紹介する。

①ソウル大学自由専攻学部

留学の受け入れ先である。オフィスは220棟の2階にあり、日本語が堪能なスタッフさん（キムチャンミ先生）がいる。常に我々の留学生生活を気にかけてくれ、相談やトラブルにも親身に対応してくれる。事務手続きや授業の履修、寄宿舎についてなど、あらゆる問題に責任を持って対応してくれるため、まずはここに連絡をするとよい。普段からこまめに連絡をとったり、顔を出すなどすると、何かあったときに気軽に相談できるだろう。

②東京大学ソウルオフィス

宇庭園という建物の5階にある。東大との学術会議のセッティングや、在韓東大卒業生の名簿管理などを行っている。東大がかかわるイベントのサポートが主な業務であるため、ここを通じて、韓国で行われる東大のプログラムに参加する学生や、東大卒業生などの紹介を受けることもできる。

3. おわりに

以上、ソウル大学での留学生活において、参考にするべき情報を整理した。最後に、個人的な留学の感想を記し、この報告書を結びたいと思う。

韓国留学は、簡単な面と、難しい面が混在している。まず簡単な面について。生活文化が日本と似ており、さらに距離的にも日本と近い韓国は、「外国」「異文化」での生活という感じがあまりない。生活にもすぐ慣れるだろうし、もし何かあればすぐに帰国もできる。韓国には日本語学習者も多く、スーパーには日本の食品が並び、日本のアニメやドラマは大変な人気である。居心地はよいであろう。しかし、これが同時に、留学を難しくしている要素になり得る。

日本語を使って友達が作れる。この楽しさに慣れてしまうと、韓国語や英語を使って友達を作るのがおっくうになる。また、韓国語は比較的すぐに「話せる」レベルにまで上達するため、そこから伸び悩む。半年以上滞在しても、積極的な努力なくしては、語学の面において留学に来るメリットは感じにくいかもしれない。

しかし、この問題は少しの努力でクリアできる。難しいのは、その先だ。言葉が通じるレベルを超えて、言葉が通じるのが当たり前になったとき、それは人間関係の問題になる。日本と韓国、大変似ている両国であるが、そこに住む人々の心の動きは、同じではない。韓国の対人文化を知ることが、留学の醍醐味であり、最大の難関であろう。外国の学生と交流する楽しさや、思うようにやり取りができないもどかしさは、短期のプログラムでも体験できる。半年や一年の留学であれば、外国人と人間関係を結ぶことが一つの課題になる。

相手の性質の、どの程度が「韓国人」の性質で、その程度が「その人」の性質であるのか。自分の対人スタイルのどの程度が「日本人」のやり方で、どの程度が「自分」の譲れない主張なのか。このあたりに留意し、相手に理解してほしいことはきちんと言い、受け入れられないことはきちんと断る態度が、自分の身を守るためにも必要である。

基本的に、韓国人は「情」の深い人々だといわれる。友達の家を招待されたときは、腹が爆発するほど食べ物を勧めてもらったし、テコンドーの道場の門を叩いたら、それから毎日車で送迎してもらうことになった。親切の度合いは、確実に日本人以上である。初めてこうした「情」に触れたときに感動を覚えると思うが、こうした態度は「皆が優しい」からというより、一つの文化であると見る、少し冷めた客観的視線も忘れないでいたい。当然、与えられた「情」は、返すことが前提となっている。また、「情」はやさしさというより、彼らがそれをしたくてしているのだから、必ずしもこちらの得になるようにはなっていない。食べきれずに腐らせてしまうほどの食べ物をもらうことだってあるだろう。そうした中で、どこまでこうした人間関係と距離を取るか。たくさん頭を使うことになるだろう。韓国人のこうした性質は有名であり、なかには「だから韓国人とは関わらないほうが良い」とまで言う人もいるそうだが、それは大変極端である。

私の結論はこうだ。一般的な韓国人としての性質は確かにあるが、個人個人、性格や考え方は違う。相手が何を考えているか、できるだけ言葉に出して聞いてみて、確認することが大切だ。それが、うまく付き合うためのコツだと思う。やはり、聞いてみるまではわからないものである。そしてなにより、このことは日本人に対してもそうだ。我々は同じ日本人というだけで相当部分、分かった気になることが多いが、実際には多様な人々がいる。過剰に迎合せず、敵視せず、自分が良いと思う関係を構築することを優先順序の一番目に掲げて、努力すべきである。



通っていたテコンド一道場のみなさんと。温かく迎え入れてくださり、楽しい体験ができた。